

氏 名：古城門 靖 子

学位の種類：博士（看護学）

報告番号：甲第98号

学位記番号：博第96号

学位授与年月日：令和2年3月17日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文題目：経験豊富な精神看護専門看護師の役割開拓

Pathbreaking Roles of Experienced Psychiatric Mental Health Certified Nurse Specialists
in Japan

論文審査員：主査 本 庄 恵 子

副査 小 宮 敬 子（正研究指導教員）

副査 守 田 美奈子（副研究指導教員）

副査 川 名 る り

副査 鷹 野 朋 実

論文審査の結果の要旨

近年の日本では、少子高齢化社会における医療ニーズの増大と多様化のなか、新たな健康支援のシステムが望まれており、それに向けての高度実践看護師への期待は多大なものがある。精神看護専門看護師（以下 PMH - CNS）は、1996 年の制度誕生以来、地道に高度な実践を積み重ねてきているものの、経験を積んだ CNS が体験する困難とその対処を含む役割開拓のプロセスは明らかにされていない。そこで本研究は、経験豊富な PMH - CNS の詳細な体験の検討を通して、彼・彼女らが役割開拓をしていく中で直面した困難とそれを乗り越えていくための方略を描き出し、その意味を考察しようとするものである。高度実践看護師の役割・意義については、現在の看護学教育においても重要なテーマであり、このテーマ設定及び問題意識は、時宜を得たものと評価された。

本研究では、フォーカス・グループインタビュー（以下 FGI）の手法を用いて、5年以上の経験を持つ 10 人の PMH - CNS を研究参加者とし、「CNS としてこれまでやってきたこと」について自由に語ってもらった。FGI は全部で 10 回行われ、各参加者の FGI への参加回数は平均 4.4 回であった。研究者はその都度、質問を投げかけながらも、基本的には参加者間の交流を促進するように進め、参加者たちは相互に刺激しあい、過去を想起しながら豊富な体験を語った。FGI での語り合いは、参加者の体験を掘り下げデータの質を高めるとともに、ピアサポートの機能も果たしているものと高く評価された。

結果は、PMH - CNS が所属する組織の中で自らの役割を獲得していく過程と、それぞれの役割開拓のプロセス及びそこで体験した困難とその克服のプロセスと方略をストーリーとして描き出した。そのことにより、まだ PMH - CNS への周知も理解も乏しい時期に、自らの経験と知識に基づいて戦略を駆使し、役割を開拓していった様相を浮き彫りにすることができた。とりわけ、PMH - CNS に特徴的な、困難事例の援助を通じたスタッフ支援の在り様や、組織の中で孤立しがちな看護管理者へのサポートとそれに伴う葛藤という現状をよく捉えていること、感情知性の力を活用しながら取り組んでいく PMH - CNS の高度な実践力を丹念に描き出していることは高く評価された。また、個々の事例で起こっていることを組織の力動と結びつけながら理解し、患者中心の質の高いケアを実現しようとする PMH - CNS の高い問題意識とそれに伴うジレンマとがよく記述されていたことも評価された。

考察では、PMH - CNS が直面した困難を、開拓者としての PMH - CNS が、「タテ」社会であり、かつ市場原理が席卷する病院という組織に引き起こす「コンフリクト」という観点から分析され、それを生き延びてきた力を「レジリエンス」の概念から捉え直している。このことは、PMH - CNS に必要な能力とそれを培うための CNS 教育や支援の方向性を示唆するものといえる。

本研究は、経験豊富な PMH - CNS 自身の語りを通して、現時点における活動の到達点と今後の課題を明確にしたものであり、その実践と教育とに深く寄与するものであると高く評価された。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。